

日時：令和5年10月12日(木) 14:30～16:30

場所：八戸工業大学 2号館3階大会議室

出席者：33名（別紙詳細）

次第：1. 挨拶

HIT カーボンニュートラル人材育成協議会 会長

八戸工業大学 学長 坂本 禎智

2. 講演

演題「久慈市におけるカーボンニュートラルに関する取り組みについて」

久慈市 企業立地港湾部 部長 大崎 健司 様

3. 議事

(1) カーボンニュートラル人材育成のためのアンケートに関する結果について

(2) カーボンニュートラル教育プログラムおよび寄付講座について

(3) 初等中等教育へのカーボンニュートラル教育の展開について

(4) HIT 機械工学基礎プログラムについて

(5) その他

## 会議記録

1. 挨拶

HIT カーボンニュートラル人材育成協議会 会長 八戸工業大学 学長 坂本 禎智

産学官の連携により、魅力的なカーボンニュートラル人材育成プログラムを構築するという協議会の趣旨を再確認した。また、多様な分野で情報を共有し、今後の課題を見出しながら活動していきたいと挨拶があった。加えて、人材育成プログラムの構築にあたり本学が発信したアンケート調査について、回答協力の御礼が述べられた。

2. 講演

演題「久慈市におけるカーボンニュートラルに関する取り組みについて」

(久慈市 企業立地港湾部 部長 大崎 健司 様)

久慈市における再生エネルギー関連の取り組みについて、具体的な事例とともに説明いただいた。

3. 議事

(1) カーボンニュートラル人材育成のためのアンケートに関する結果について (折田 久幸 教授)

資料1に基づき、エネルギー関連企業に向けたアンケート調査の結果が報告された。

(2) カーボンニュートラル教育プログラムおよび寄付講座について (折田 久幸 教授、信山 克義 教授)

資料2に基づき、今年度より始まったカーボンニュートラル人材育成プログラムの説明があった。また、同じく資料2に基づき、青森県内のエネルギー関連企業による寄付講座「青森のエネルギー産業」について説明があった。

(3) 初等中等教育へのカーボンニュートラル教育の展開について (花田 一磨 准教授)

資料3に基づき、小中学校へ向けたカーボンニュートラル教育について説明があった。

(4) HIT 機械工学基礎プログラムについて (太田 勝 教授)

資料4に基づき、本学が開講する履修証明プログラム「HIT 機械工学基礎プログラム」について説明があった。

## (5) その他

次回の会議開催について、2月～3月頃を予定しているとの案内があった。詳細が決まり次第、改めて連絡することとした。

### ○質疑応答、情報提供

Q 久慈市の講演資料を拝見したところ産業部門、運輸部門に力を入れれば2040年にCN達成可能ではないか？

(株式会社八戸インテリジェントプラザ 松坂洋司氏)

A 公用車のEV化ならびにEVスタンドの設置が、行政単独では難しいのが現状である。国として進めないと導入・促進は図りにくいのではないか。産業部門については、三陸沿岸道路復興事業の終了などにより、建設業をはじめ仕事が減っており、支出を強いるのが難しい所である。引き続き、研究と検討を重ねていきたい。

(久慈市 大崎 健司 氏)

Q 久慈市の取り組みは、市が主体となって発案したものか？また、青森県の自治体で同様の取り組みがあれば情報共有いただきたい。

(青森県工業会 花松 憲光 氏)

A 東日本大震災からの復興計画を2011年7月に策定し、再エネ導入促進を目標に掲げたが、実現に進まなかった。自分たちで考えるべくアンテナを張って取り組んでいたところ、環境省から横浜市との連携について提案があった。環境省に職員を派遣していることもあり、経済循環の仕組みを職員が中心となって研究した。商工会議所、建設会社、久慈市それぞれの強い思いがある。

(久慈市 大崎 健司 氏)

A 六ヶ所村では、令和4年12月にゼロカーボンシティに向けたを宣言した。自治体との地域新電力構想も検討中で、令和7年4月を目処に立ち上げたいと考えている。太陽光、蓄電池、バイオマス、牛のバイオガスなどを活用して、取り組んでいく。

(六ヶ所村 吉岡 主悦 氏)

### ○出席者からの意見

・大学での講義において地元の課題を取り上げ、どう解決していけば良いかを盛り込み、地元に残る学生を育成してほしい。都会への流出が止められない中、地元で学ぶ機会を活かし、活躍してほしい。

(六ヶ所村産業協議会 千田 昇 氏)